

長崎の教会と隠れキリシタン

長崎の教会 群

長崎のキリシタンは、徳川幕府の厳しい禁教令のもと、1640年代にはいなくなるとされていたが、しかし、浦上や西彼杵半島、五島などには厳しい監視の目を逃れ、信教を守っていた人たちがいた。隠れキリシタンといわれる人たちである。約300年間、キリスト教の宣教師がいないなか、彼らは独自の組織を作り、10数代にわたり、信仰は続いた。

江戸末期になり日本が開国すると、西欧諸国の人々が長崎に来訪し、日本に外国人用の教会を作る。1865年(元治元年)の大浦天主堂もそれであった。フランス人の宣教師・プチジャンが26聖人追悼記念館として建てたもので、当時フランス寺と呼ばれていた。

長崎の町民は威厳ある建物を一目見ようと連日多くの人々が詰め掛けた。この中に、浦上のキリシタンの農民がいた。彼ら、彼女らは神父に向かって、信者であることを告白する。まさに奇跡と呼ばれる信徒発見の瞬間だったが、しかし、当時の日本はまだ禁教令が敷かれていて、再度の弾圧が始まる。いわゆる浦上4番崩れである。

ここに、掲載する教会群は、隠れキリシタンの教会などではあるが当然ながら、いずれも明治以降のものである。しかし、明治期以降も隠れキリシタンの人たちの多くは、山里深いこれらの土地にひっそりと教会を建てた。

大山教会、善長谷教会などは、長崎市民でもなかなか行ったことがない山奥であり、車一台がやっと通れる細い道と急坂にあり、「隠れ」という言葉を実感する、江戸や明治期から戦前までのあいだの厳しいキリシタン弾圧を思い起こさせる。

日本の過去の時代には、人の思想や信仰の自由を得るためには、まさに命をかける「決心」が必要であったことを学ぶ意味で、見ていただければと思う。

※切支丹(キリシタン)とはラテン語でキリスト教信者の意味。

※バテレンとはポルトガル語のバードレからくる、神父、司祭の意味。

※キリスト教伝来は1543年のフランシスコ・ザビエルの鹿児島上陸に始まる。

※江戸末期に来日したプチジャンは「信徒発見」で奇跡を起こした人とされ、「明治のザビエル」と呼ばれる。

※「昭和のザビエル」と呼ばれるのがコルベ神父で、長崎で「聖母の騎士修道院」を建てて布教し、ドイツに帰国後、ナチスにとらわれ、獄中において身代わりで「ガス処刑」をされた人だ。



長崎の元離島の伊王島に建つ馬込教会。2011年3月に橋でつながった。住民の7割はキリスト教信者という。最近NHKの映画で再上映された山田洋次監督の「家族」(1970年作成)の起点となった島だ。この夫婦もキリスト教信者となっている。倍賞千恵子さんが演じていたが、映画のシーンで、家族が島を出て北海道に旅立つとき、教会の庭から神父さんが船に手を振る光景が印象的であった。



長崎市深堀町の海沿いの山奥＝大龍町(おおごもり)の善長谷に建つ教会。地名の「ぜんちょう」とはラテン語で異教徒と言うが、そのほかの由来(仏教徒説)もあるという。明治以降、禁教令が解かれた後も、隠れキリシタンとして独自の信仰を守るために、ローマカソリックに戻らず、再度この地を離れた一団が、今も近隣の地域の集落に点在すると記録されている。



長崎市外海町の大野に建つ大野教会。ドロ神父が建てた。道が非常に狭い。壁が独特の造りで、古さを感じさせる。遠く西方のローマへつながる海に向かって建っている。



長崎市大山町に建つ大山教会。ここに行くには、国道 499 号線の小ヶ倉バイパスの「大山入り口バス停」から左折し、約4キロの山奥である。急坂や狭い通りもあり、注意が必要である。この集落には小学校低学年の分校と、小さい店が一軒あるのみで、大半の住民は「大山」姓の名字である。むろんバスもなく、道は行きどまりで、地元の人以外はなかなか立ち入らない山奥である。



長崎市神の島の神の島教会、海に向かって建つ。この教会は、加山雄三の父で映画俳優の上原謙が結婚式を挙げたことから有名になり、今も一年に50組ほどの結婚式があるといわれている。ここも以前は離島であり、船で通った。



長崎市福田本町岳にある岳の教会。1966年に「沈黙」を書いた遠藤周作の小説の舞台づくりになった教会だと言われる。この教会は1970年に作られており、遠藤周作が訪れたのは古い教会であったようだ。ここも結構な急坂の細い道で、山奥である。



26 聖人、長崎への上陸地、大村領の彼杵の港を夜に出て、長崎市時津町の港には未明についたが、信者の奪還を恐れて、船は沖合に待機をして明るくなってから上陸したとある。今は、大村空港行きの船着き場だ。



26 聖人のモニュメント西坂の丘。宣教師で「日本の歴史書」を書いたフロイスは、現地でこの処刑を見て、遠くローマに殉教の知らせを送った。長崎の悲劇の始まりといえる。ここには500名の処刑(殉教)の記録がある。



隠れキリシタンの枯松神社。日本に3ヶ所しかない神社といわれる。長崎市黒崎町の山の中にある。残りは、長崎市淵町の淵神社と、東京都の伊豆大島の「おたあね神社」に残っていると書かれている。

以下、異聞。おたあ様は、徳川家康に仕えた人で、禁教令下でも棄教を拒み、伊豆大島に流された人だとされる。また、長崎のロープウェイ乗り場横の淵神社に祭ってある人はキリシタン大名・大友宗麟の娘ともいわれる。



島原の乱の原城跡から談合島を見る十字架を掲げる石像。この島で島原と天草の農民たちが一揆を話し合ったということから通称「談合島」と呼ばれている。島の先は天草である。原城に立てこもった一揆軍は必ず、海の向こうから、ポルトガルやスペインの帆船が助けに来ると信じていた。しかし、やって来たのは幕府軍の要請で、「布教をしない国」のオランダ船であった。その大砲の威力と失望感から、一揆軍は精神的にも総崩れとなり、戦は終わったといわれている。(島原の乱の大作＝「出星前夜」、飯嶋和一から)。最近12年7月のNHKの「歴史探訪」でも同様の解説が行われていた。



長崎市黒崎町の黒崎教会。ドロ神父様の教会で立派だ。日本のキリスト教の教区での最高位の
大司教には、ここの(外海町)出身の人が数名いるそうだ。隣の出津の教会と共に、権威ある教
会だ。



島原の初代藩主＝有馬晴信が居城としていた城で、キリスト教布教の拠点となった日野江城の

跡。1570年代、この城のふもとに、日本初のキリスト教の学校(セナリヨ)が開かれた。ここを訪ねた遠藤周作は、「観光化されていないところがすばらしい」と「切支丹の里」に書いているくらい、何も無い。南島原市の有馬町にある。幕府収賄事件の岡本大八事件に連座し、切腹を命ぜられた晴信がここを去り、廃城となった。



平戸市田平町の田平教会。九州本土では最西端の教会で有名。1918(大正7)年に大工・鉄川与助(新上五島町の出身で、九州の教会の大半は彼が建てた)の手により作られた長崎でも有数の荘厳な教会である。



平戸市紐差町の宝亀教会。平戸から車で小一時間走るかなり西の端の町の山の上に立っている小さいが綺麗な教会だ。



平戸市にあるザビエル記念聖堂です。迫力ある聖堂で、観光客も多い。ザビエルは、鹿児島からこの平戸に来て、本格的に布教へ入ったとされる。平戸は日本最初の西洋との交易の島であり、港である。今でもオランダ商館あとなどが残る情緒ある町である。



ローマに渡った天正使節少年団の一人、中浦ジュリアンの像。西海市七ツ釜、中浦の記念館の上に建つ。中浦城主の一人息子である。ジュリアンは少年使節の4人のうち、一人だけ殉教をしている。西坂の丘で処刑される時、逆さづりという最も苦しい刑に数日間耐え抜き、絶命のとき、「私はローマに行った中浦ジュリアンなるぞ！」と叫んだとフロイスは書いている。



天正使節団一人。千々石ミゲル。長崎県千々石町支所の中に建つ。千々石城主の子供であ

る。のち、彼は棄教する。大村純忠(従兄弟にあたる)の説得からだとされる。墓石は、数年前に地元の郷土史家によって発見され、話題となったが、諫早市多良見町伊木力のJR大草駅近くの線路わきに立っている。



長崎県波佐見町に建つ原マルチノの像。天正少年使節の一人。波佐見城主の息子とある。使節団は侍(領主クラス)の子供が条件だったといわれる。

ちなみに、4人の使節団の残りの一人、伊東マンショは、帰国後、長崎のセミナリヨなどでキリスト教を教えていて、1612年に長崎で病死をしたとあるが、記念碑などがどこにあるか分からない。彼は宮崎の人で、大友宗麟の縁者ということだから、そこかもしれない。写真は撮れなかった。



信長の時代。日本最初の貿易港は平戸だった。しかし、宮前事件で平戸を追われたポルトガルは、大村の領主の許可をうけ、長崎の西彼杵半島の先端、横瀬浦に港を作り、教会を建てる。のちに日本史を書いた宣教師・フロイスは 1563 年、31 歳の若さでここに上陸し、日本の地を踏み、34 年間、布教に努め、弾圧の嵐の下をくぐりぬけ、棄教せずに長崎で死去している。彼は信長や秀吉にも謁見し、多くの歴史的資料を残した。西坂の 26 聖人処刑にも立ち会い、遠くローマへ殉教の知らせを送っている。この像は、横瀬の港を見下ろす公園に建っている。西坂の 26 聖人記念公園にも、フロイスの記念碑がたてられている。



五島・久賀島の浜脇教会。港に入るとき、フェリーから真っ先に見える教会で実に美しい姿だ。



五島・久賀島の窄殉教記念館。明治初めの弾圧で、多くの死者を出した窄の集落に立つ。記念碑などの資料によると、わずか10畳ほどの農家の座敷牢の部屋に詰め込まれた信者・数十人は、身動きもままならない状態で、殺されていったと書かれている。五島・福江島のさらにそこから離れた離島でも、しかも明治(西欧との交易での開国後)になってもまだ、宗教弾圧は続けられたことは、記憶にとどめたい。その根は、天皇を神とする神道の存在から、この宗教弾圧が行われたからだ。



長崎港入り口に立つマリア像。神の島に建つ。今は陸続きで歩いて行ける。夕日ときは特に美しい。